

製品名: GSTM1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81065**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ELISA,FC
反応性	人間、ネズミ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	26kDa

抗原情報

遺伝子名	GSTM1
別名	MU; H-B; GST1; GTH4; GTM1; MU-1; GSTM1-1; MGC26563; GSTM1a-1a; GSTM1b-1b
遺伝子 ID	2944.0
SwissProt ID	P09488
免疫原	大腸菌で発現したヒト GSTM1 の精製された組み換え断片。

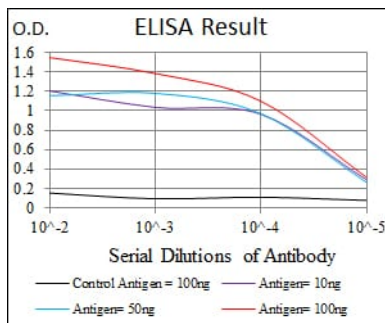
背景

細胞質型および膜結合型のグルタチオン S-トランスフェラーゼは、2つの異なるスーパー遺伝子ファミリーによってコードされています。現在、哺乳類の可溶性細胞質グルタチオン S-トランスフェラーゼには、 α 、 κ 、 μ 、 ω 、 π 、 σ 、 θ 、 ζ の8つの異なるクラスが同

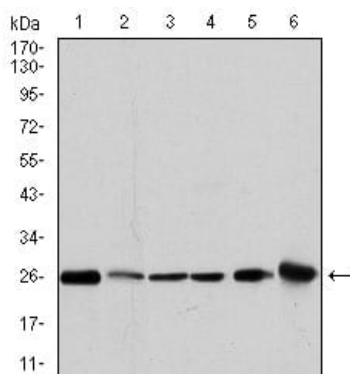
定されています。この遺伝子は、 μ クラスに属するグルタチオンS-トランスフェラーゼをコードしています。 μ クラスの酵素は、グルタチオンとの抱合により、発がん物質、治療薬、環境毒素、酸化ストレス産物などの親電子化合物の解毒に作用します。 μ クラスの酵素をコードする遺伝子は、染色体1p13.3上の遺伝子クラスターに配列されており、高度な多型性を持つことが知られています。これらの遺伝子変異は、発がん物質や毒素に対する個人の感受性を変化させるだけでなく、特定の薬剤の毒性や効能にも影響を与える可能性があります。このクラス μ 遺伝子のヌル変異は、多くの癌の増加と関連付けられており、これはおそらく環境毒素や発癌物質に対する感受性の増加に起因すると考えられます。この遺伝子の転写バリエーションは、複数のタンパク質アイソフォームをコードしています。

研究分野

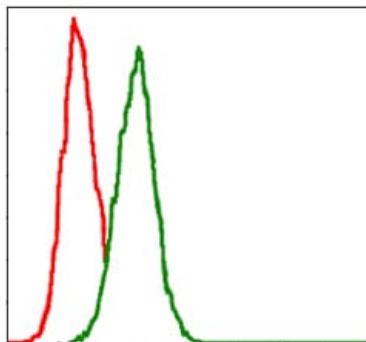
画像データ



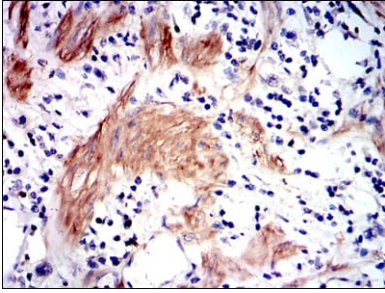
黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



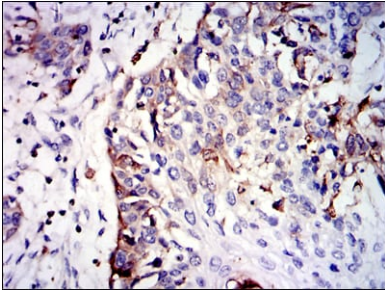
MCF-7 (1)、PC-12 (2)、Jurkat (3)、Hela (4)、HL7702 (5)、および HepG2 (6) 細胞溶解物に対する GSTM1 マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



GSTM1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した Hela 細胞のフローサイトメトリー分析。



GSTM1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト胃癌組織の免疫組織化学分析。



GSTM1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト食道癌組織の免疫組織化学分析。